

# あしどり



第 90 号

2017 年 1 月 日本野鳥の会三重  
<http://miebird.org/>

# ソーラー計画について

## ～ 四日市メガソーラー・足見川メガソーラー建設計画に見る里山の崩壊 ～

四日市市 安藤 宣朗

地球温暖化防止政策の名のもとに、広大な里山が恐ろしい姿に変わろうとしている。その1つは、市内桜町の里山に計画中の四日市メガソーラーで発電能力2.1万kW、建設面積68.1haに12万枚のパネルの設置、2つ目は、その近隣にある波木町・山田町・小林町の三町にまたがる貴重な里山に計画中



四日市メガソーラー建設予定地

### 目次

ソーラー計画について	2
表紙の言葉	2
メガソーラー計画地の野鳥	5
フクロウの受難	7
シギ・チドリ年齢・季節による羽衣の変化	8
「叶内拓哉さん 五主探鳥会、講演会」に参加して	12
県民の森の冬鳥たち	12
「第8回くるくる環境フェスタ」に出展	13
「川と海のクリーン大作戦」に参加しました！	13
大阪支部の探鳥会に行ってきました！！	14
2016年秋のタカ渡り 結果報告	14
事務局だより	16
今後の探鳥会予定	17
野鳥記録	18
探鳥会報告	21
編集後記	24

の足見川メガソーラーで、発電能力5万kW、建設面積98haに23.7万枚ものパネルの設置である。2か所合わせて東京ドーム約36個分(約166ha)もの広大な敷地に約36万枚ものソーラーパネルが敷き詰められようとしている。皆さんそんな光景を想像してみてください。それも人里離れた場所ならともかく、多くの人々が住む団地に隣接した所に建設するのです。自然豊かな里山の四季、野鳥のさえずり、清々しい風・・・こんなあたりまえの自然が無くなり、パネルの海に変容するのです。今までに経験したことが無い異様で、恐ろしささえ感じざるを得ません。

鈴鹿山脈を背後にした四日市市は、山麓から流れ出る幾多の川により素晴らしい丘陵地が形成され、町の近くまで自然豊かな里山環境が沢山あった。しかし、高度成長期以降、ゴルフ場宅地造成、道路建設や工業団地の開発が急激に進み自然環境が大きく破壊されてきた。今や四日市市の森林率は、わずかに14%程度である。これ以上この素晴らしい里山里山を無くすことは、生態系を根本的に破壊することになる。

### 1. メガソーラー建設が及ぼす影響・・・環境破壊による公害の危機

広大な森林を伐採し禿山になったら、生態系の破壊はもとより、居住環境に対しても取り返しのつかない危険な状態が予測される。

### 表紙の言葉

ハマシギ

津市 石原 宏

随分と昔の事ですが・・・野鳥の観察とか写真撮影に熱中していた頃の話です。五主海岸の干潮時刻の砂浜で夢中で過ごしていた時、いつの間にか潮が満ちて来、気がついたら自分が鳥達に囲まれていてビックリ、それが「ハマシギ」の群でした。

この季節、私の鳥観察の一番の楽しみは近くの海岸でミユビシギと共に群で越冬するハマシギです。

春には背中が茶色くなり、胸毛？は黒くなって繁殖のため北に旅立って行きます。

i) 生態系の破壊

足見川メガソーラーの建設計画が明らかになって以来、私たちは（当会の北勢地区有志を中心に）この建設予定地の状況を調査した。

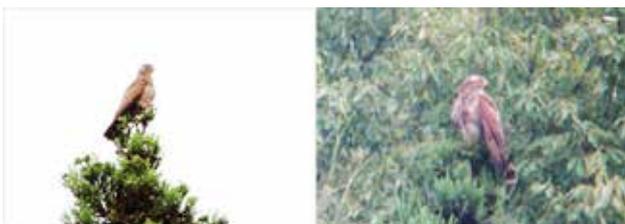
その結果、今年（2016年）6月5日以降7月中旬まで、サシバのつがいが継続的観察され餌運びも複数回確認した。また過去の記録を調べてみると2009年頃から観察されていることや、地元の人達からの情報では、「毎年タカを良く見かけるよ」と話していることから、この里山には、永年サシバが飛来し繁殖していたものと推定される。さらに、6月27日に足見川沿いの水田で狩りをするオオタカのつがいを、7月にはチョウゲンボウをしばしば観察した。

サシバは、全国的に減少が著しく絶滅危惧IB類EN（三重県）に指定されている貴重な猛禽類である。南西諸島からフィリピンにかけての地域で越冬し4月初旬に日本列島へ飛来して繁殖する。その後9月下旬に南西諸島方面へ帰る渡り鳥である。深い山林で生息することは少なく、水田があり周囲を丘陵林が囲っている里山を好んで生息する。この建設予定地にサシバが飛来することは、県内でも数少ない素晴らしい里地である事の証しである。

また、オオタカは、絶滅危惧II類VU（三重県）に指定されている。サシバとは異なりほとんどが渡り



オオタカ



サシバ

をせずに民家に近い里山を好んで生息する。このように、生態系の頂点に位置する猛禽類の存在は、下図に示す通り素晴らしい生物多様性の存在があり、永年に渡り大切に生態系を守ってきた証拠である。こんな貴重なフィールドが崩壊されてしまう。



生態系ピラミッド（食物連鎖）

絶滅危惧IA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧IB類 (EN)	I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

表1. レッドリスト・カテゴリー（絶滅危惧種の分類）

2. 居住環境への影響

i) 事業終了後の姿

この事業は、宅地造成や企業誘致とは根本的に違いがある。永続的なものでなく、20年間の固定買取制度に基づく事業であるため、買取価格が低下すれば事業は成り立たなくなり継続が困難となる。そのため事業終了後に残された課題は多い。パネルの残骸処理・跡地の処理、仮に里山に戻すとしても数十年かかるだろう。事業者は、20年後この土地の佇まいを今だ描いていないのが実状である。

ii) 水害の恐れ

里地を流れる河川は、農耕用に整備された小川であり、森林の伐採により保水力を無くした斜面から

は、一気に濁流となって川の氾濫、田畑の浸水など、きわめて危険な状態にさらされる。もちろん調整池を造るにしても、最近頻繁に起こるゲリラ豪雨への対応は不可能と思われる。

### iii) ソーラーパネルの反射熱

足見川メガソーラーで見れば24万枚ものパネルが敷き詰められる。パネルの反射熱により周辺の気温上昇、気候変化や田畑への影響が心配される。事業者の見解では、「事業に先立って類似施設における調査に基づき、影響予測・評価を行う」としているが至って曖昧である。

### iv) 太陽光発電システムから発生する電磁波

今回の設備は、住宅地に近い事や規模が大きいだけに設備（パワーコンディショナー）から発生する低周波電磁波の影響が心配される。

## 3. 地球温暖化防止政策など

確かに、昨年パリで開催されたCOP21ではパリ協定が締結され、地球温暖化防止のため国の温暖化ガス削減目標が決定された。日本は2030年までに2013年度比26%の削減を約束した。国として達成に向けた諸政策を講ずる必要があり、私たちも協力することに異論はない。また、太陽光発電など再生可能エネルギーの普及も理解できる。私たちは再エネ賦課金として、電気使用量1kWh当たり2.25円を負担（H28年度）しており、各家庭一戸当たり年間8,100円（全国平均）もの協力金を払っている。今回のような自然破壊を伴うメガソーラーに協力金を支払うのは、いささか疑問がある。資源エネルギー庁によると2017年4月から固定価格買取取り制度の改訂案が出ており、順次価格が下落する事により、再投資の可能性は少なく、現在契約中の固定価格制度が切れる20年後には再稼働が難しく放置される可能性が高い。

H24	H25	H26	H27	H28
40	36	32	29	24

表2. 事業用（10kW以上）太陽光  
買い取り価格（円/kWh）

## 4. 日本野鳥の会三重の取組

自然環境を守るために、事業者及び行政に対し次の事を強く要望していく。

- i) ソーラー事業の中止
- ii) 全面的に里山生態系保全区として保護する
- iii) 再生エネルギー利用が自然環境破壊を起こさな

いようにゾーニング（土地利用計画）や地域別裁量規制の実施

今までの動き

・2016年6月13日：事業者へ方法書に対する意見書を提出

・2016年8月1日：三重県知事 および 四日市市長へ要望書の提出および説明を実施

同日に記者会見しマスコミへ状況説明、後日新聞報道された。

・2016年8月16日：四日市市環境保全審議会で当会の要望が審議された。

今後、地元の自然保護団体と連携し建設計画の中止に向けた取組をしていく。

## 4. まとめ

地球温暖化防止政策の名のもとに、猛禽類を頂点とする生物多様性豊かな広大な里地里山をパネルで覆い、わずか20年間の事業のために提供するとしたら誠に残念であり、後世に汚点を残すことは間違いない。大切な里地を破壊しなくとも、全国には、まだまだ建設に適した空き地があるはずだ。当該ソーラー建設は、工場誘致や住宅建設などによる雇用や税収の増加は期待できず、地域住民にとって害があってもメリットのない事業としか思えない。事業主は県外の企業であり、目的は単に一企業の利益追求に他ならない。また、広大な敷地を破壊して得られる発電能力は四日市メガソーラーと足見川メガソーラーを合わせて7.1万kWであり四日市火力発電所の142万kWに対し20分の1に過ぎない。

地球温暖化防止・再生可能エネルギーの普及は、世界・国家として積極的に促進すべき課題であるが、無制限・無秩序にやって良いわけがない。

今回の計画のような自然破壊のリスクを含む事業には、行政（国・県・市）が積極的に係り、自然保護のために努力すべきである。環境省は「絶滅危惧種を守ることは、生命の歴史と私たちの暮らしを守ること」と強調しているが、行政の実行力を強く望むところである。

また、地元住民の方々を含め市民全体で「自然環境を守る」ことを声を大にして、事業の中止を求めていく。

協力者：平井正志、笹間俊秋、三曾田明、西村泉  
各氏

出典：・経済産業省資源エネルギー庁資料 ・環境省資料 ・四日市メガソーラー方法書 ・足見川メガソーラー方法書 ・その他

# メガソーラー計画地の野鳥

四日市市 笹間 俊秋

2016年5月下旬に野鳥の会の役員の方からメールをいただきました。自宅から程近い場所に大規模なソーラーパネルが設置されるのでその周辺でのサシバなど猛禽の生息の調査の依頼でした。

そのころ私は菰野町の林道へサンコウチョウの繁殖観察に行っている最中でした。サシバは渡りの時期以外に見たことは無く興味はありました。しかし、その場所は近所とは言え今まで行ったことはありませんでした。私の住んでいる所は北勢地区最大の団地の笹川団地です。周辺は住宅ばかりで自然はあまり残っていない印象がありましたので、サシバがいるようなところがあるのかと懐疑的でした。

5月29日に三重支部の総会の帰りに四日市の方と下見に訪れました。その場所は、県道140号線と団地に挟まれ、周囲を小高い山に囲まれた田んぼ等が広がる農地です。私は車でよく通っていましたが山の木々が遮断して全体を見通すことが出来ずその場所の存在には気づいていませんでした。その日は、もう夕暮れ近くで雨も降り出していたので場所の確認だけに終わりました。そのため後日、4人で本格的に調査へ行くことが決まりました。

## 1. 足見川の自然と観察された動物

6月5日に内部地区の市民センターに集まり足見川へと向かいました。足見川周辺の農地はすぐ近くに県道が通っていて大型トラックなどの往来が激しい所ですが、県道から狭い農道でしか入って行くことが出来ません。農家の方以外はまったく入って来ず。のどかな風景が広がっています。農地は足見川から引いた水路が張り巡らされ水田と麦畑が半分ずつで、水田は田植えを終え稲がぐんぐん成長しており片や麦畑は黄金色に輝き収穫の時期を迎えていて、今ではあまり見られなくなった里山の風景がここには残っていました。

小高い山々に囲まれ周囲から遮断された環境は動植物を自然で生き生きとした姿を見せています。サギ類はアオサギ、ダイサギ、チュウサギ、アマサギなどが揃っており集団で餌を捕っています。ツバメは普通種だけではなくコシアカツバメも多数飛んでおり、足見川に架かる橋の下に壺状の特異な巣が確認できます。田んぼの畦にはスズメ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ホオジロ、カワラヒワ、それに蛇もいます。田んぼの中や水路にはカルガモ、イシガメ、蛙やオタマジャクシ、小魚、水棲生物も



豊富におり、それを目当てにカワセミがつかいで漁をします。上空にはツバメに混じって無数の赤とんぼが飛びまわり、夏の避暑のため鈴鹿の山々へ向かう準備をしています。山の木々に目を向けると木の中にはヒヨドリ、ムクドリ、ツバメの幼鳥、ハシボソカラスがとまっています。林の中からはウグイス、ホトトギスの声が、そして遠くから微かにサンコウチョウの声まで聞こえてきます。農家の方の話によると夜間には鹿や猪も出没するそうです。

観察を続けるうちに、お目当てのサシバが我々の目の前を飛翔してくれました。しかも、つかいでディスプレイ飛行まで披露してくれ、これでここが生息地であることが証明されました。

## 2. サシバの観察

調査初日にディスプレイ飛行が観察できたサシバでしたが、それ以降すぐに隠れてしまい出てきませんでした。したがって、そこで営巣しているのかどうかまでは初日の調査では分かりません。6月11日に再度調査することになりましたが、私は自宅が5分ぐらいのところにあるので暇を見つけては観察することにしました。

早速、晴れた早朝5時に行くと見ると水田を見渡せる高木にサシバがとまっているのを確認しました。しばらくすると突然降下して田んぼの畦に舞い降りすぐに飛び立ち他の高木へとまって、また見下ろし餌がないか探している様でした。それを何度か繰り返し餌を捕獲したのか足で何かを掴んで飛び上がり林の中へと飛んで行きました。餌運びが確認されたので、2回目の調査では餌を運んでいった場所を重点的に四方から観察することになりました。予想通りその周辺の林にサシバが何回か入って行くのを確認でき、営巣の可能性が高まりました。

観察を続けていると、トビが上空に飛んできました。トビがその林に近づくと突然1羽のサシバが飛び出し体格差を物ともせずモビングを仕掛けてます。トビも反撃しますがサシバは必死に追い払おうとしています。これでここがサシバの営巣場所であ

ることが確実になりました。この日以降、私は暇を見つけては観察をしてサシバの飛翔図を作成しました。するとサシバの姿が必ず消える場所があり、そこが巣であると推測されました。しかし、この時期は抱卵中か雛が孵っているであろうとの判断で林に分け入って巣を探さないことにしました。

### 3. オオタカの狩



サシバの観察を行っていたある日、農地をつがいの猛禽類が低空で飛翔しているのに出くわしました。明らかにサシバとは違います。すぐにカメラを構えて撮影しながら行動を観察しました。その猛禽は刈り取られた麦畑をすれすれに飛び、小鳥を追い出すように飛翔していきます。数十羽の小鳥が逃げ惑い、逃げ遅れた鳥を追いかけていた猛禽はオオタカでした。オオタカは四日市の南部でつがいが確認されているようで、その個体が狩に来たようです。しかし、この足見川周辺にはハトぐらいの大きさの鳥類は少なくオオタカの獲物としては物足りないらしく出現率は低そうです。しかし、繁殖期で多くの餌が必要な時はまれに現れるようでした。

### 4. チョウゲンボウの出現

7月に入り日中の気温が上がり、鳥の種類が徐々に減ってきました。サシバも朝夕の涼しい時間帯には現れますが昼間はあまり飛ばなくなりました。そんなある日、小型の猛禽類が突然に現れました。かなり小さくパタパタとホバーリングをしています。写真を撮ってみるとハヤブサの幼鳥かと思いました。友人に写真と状況をメールしたところ、チョウゲンボウと判明しました。今まで1ヶ月以上観察してきて初めての観察です。チョウゲンボウは単独で現れたので時期的に繁殖が終わったのか、もしくはまだ繁殖に参加していない若鳥かは分かりません。それ以降頻りに観察されるようになりました。チョウゲンボウはセイタカアワダチソウの上にとまり周囲を見渡していて獲物を見つけるとすぐに捕獲します。獲物はバッタなどの大型の昆虫を好んで捕

まえていました。

初めて観察されたころはすぐにどこかへ行ってしまいました。徐々に行動範囲が広がり活動時間も長く



なっていました。そのころにはサシバもほとんど現れず、まだいるのかどうかも怪しくなっていました。そんな中、チョウゲンボウがサシバの巣のある方に飛んでいった時、サシバがモビングに現れることがあり期せずして存在を確認することが出来ました。チョウゲンボウは7月いっぱい観察されました。

しかし、それ以降、鳥自体も少なくなったので私も足見川の観察を終了させることにしました。

### 5. メガソーラー建設

今回の観察は野鳥が目的ではなく、足見川周辺の山の木を伐採してメガソーラーを建設する計画があり、それが生息している鳥類にどのような影響があるか調べるのがスタートです。この計画では95haにも及ぶ広大な山林が伐採され、その面積は東京ドーム20個分に相当します。この場所では20年前はゴルフ場建設が計画されていたのですがバブル崩壊と共に立ち消えとなりました。それが今になり流行のメガソーラー建設が突然計画されてしまいました。折角、サシバの繁殖など絶妙な生態系が維持されているこの土地でこのような自然破壊が地元になんら関係ない人達によって躊躇なく行われるのが分かっているだけしか出来ないのが残念でなりません。出来れば計画が実行されずに済み今の自然が永遠に守られる事を願います。

### 6. お願い

今回、観察していると農家の方から気軽に声をかけていただいて、いろいろ貴重なお話を聞かせていただきました。この自然を壊されることを心配される地元の方もいて、観察に協力していただきました。猛禽類の営巣がソーラー計画の歯止めになることを期待しておられます。この農地周辺は道が狭く車の中で観察していても通行や農作業の邪魔にならないよう気を使いました。今回この記事を読んでもいただき観察に行こうと思われた方もいると思いますが、この場所に限らず野鳥観察の際はくれぐれも地元の方の邪魔にならないように静かに観察されますようお願いいたします。

## フクロウの受難

名張市 田中 豊成



9月1日の午前、知人からフクロウが釣り糸に絡まって、宙吊りになっていると連絡が入りました。早速、現場に駆けつけ案内してもらいました。場所は、名張市にある東山ふれあい公園内です。長池という池の縁にある木の枝からフクロウが釣り糸に絡まっていました。

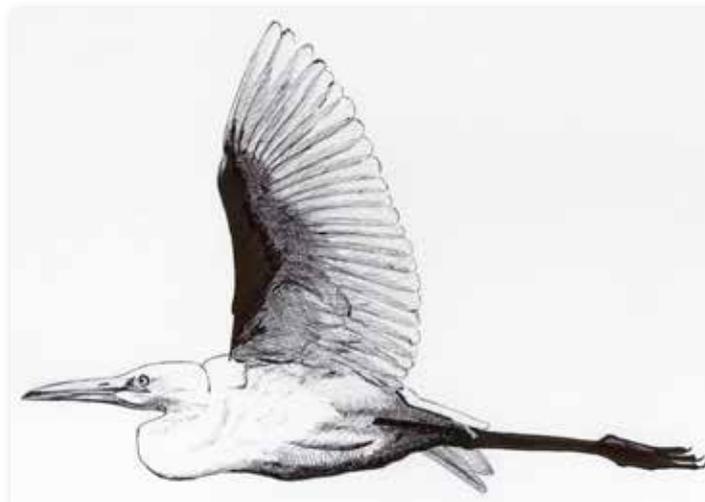
幸い池には水がなかったもので、近くまで行くことが出来て2人で糸を切り、救いました。この池には、ブラックバス釣りをしている人がいるので、枝から3本の釣り糸がフクロウの左翼の先端に絡まり、かわいそうにフクロウは宙吊り状態でした（写真参照）。3本の釣り糸はグルグル巻きになっておりました。フクロウは必死になって、相当もがき逃げ出そうとした模様ですが、最近の釣り糸は丈夫なので、無理だったようです。疲れ切った様子で、しかも左翼は伸び切り翼の基部あたりが損傷していました。

伊賀市にある三重県の出先機関である、農林事務所へ届けました。その日の内に、久居の高橋獣医さ



んに届けられました。しかし、残念ながらその夜に絶命したとの報告を後日頂きました。このような事例は、数多くあると思われます。以前野鳥の会三重では、シロチドリが絡まって死亡したことを思い出しました。

会報の「しろちどり」に掲載するだけでなく、広く一般の方にも何らかの方法で知らせていただきたいと思うばかりです。



### ダイサギ

一般にシラサギと言われていますが、コサギ、チュウサギ、ダイサギの3種があるとは、普通の方は知らないと思います。昔の図鑑では、チュウダイサギとして載っていました。ダイサギはやや大きく、冬季に大陸からやってきて、脛や跗蹠（ふしよ）が淡い肉色からモモジロと呼ばれていたそうです。

（イラスト・文 田中 豊成）

# シギ・チドリの年齢・季節による羽衣の変化

— 連載第6回 ヨーロッパトウネン —

津市 今井 光昌

ヨーロッパトウネンは数少ない旅鳥・冬鳥として日本に渡来します。三重県でも渡りの時期は毎年少数が見られるので、特に稀な珍鳥ではないですが、体が小さい上にトウネンとの識別が難しいことから、実際の渡来数より観察例が少ないのではないかと思います。識別が難しいことは見つけ出した時の充実感も大きく、渡りの時期にはいつも意識します「ヨーロッパトウネンを探そう」と。

図鑑には「トウネンより足が長い、嘴はやや長く細目、喉元は白い、採餌姿勢が違う」など、ヨーロッパトウネンの特徴がいろいろ書いてあります。しかし、野外での観察では個体差があることや、図鑑の識別点と一つ一つの特徴が両種でかぶさることも多いため、識別に迷い、ヨーロッパトウネンと判別するまでには至らないことが多かった。

そこでこの類似2種の判別の方法として、個々の識別点よりも全体の印象で感じ、その後でヨーロッパトウネンの特徴点を確認していくのが良いと思います。それには常日頃から数の多いトウネンをしっかり見ておくことが前提になります。

## 成鳥夏羽

トウネン夏羽は雨覆に冬羽が多く残りますが、ヨーロッパトウネンは雨覆の多くが夏羽に換羽するので、雨覆の羽縁が赤褐色になり、三列風切の羽縁もトウネンより赤褐色が強いです。トウネンに比べヨーロッパトウネンは上面全体の赤味が強く見えます。

図1の遠距離画像でも左右の5羽に比べ、中央の1羽は雨覆や三列風切の軸斑が黒く、羽縁の赤味が強いことからヨーロッパトウネンと判別することができます。また、喉元は夏羽・冬羽・幼鳥に関係なく白く抜けています。トウネンも夏羽に換羽中だ

と喉元が白いですが、夏羽に換羽が終わると喉元は赤褐色になります。

図2は左がヨーロッパトウネン、右はトウネンです。左のヨーロッパトウネン夏羽は大雨覆・三列風切の軸斑が濃く、羽縁の赤褐色がトウネン夏羽に比べ際立ち、小・中雨覆に冬羽が残っています。撮影日はヨーロッパトウネンもトウネンも5月26日なので、両種ともこれが完成度の高い夏羽の羽模様と言えるでしょう。



図1 ヨーロッパトウネン夏羽（中央）とトウネン夏羽5羽 2013.05.10



図2 成鳥夏羽 ヨーロッパトウネンとトウネン 2012.05.26



図3の左がヨーロッパトウネン夏羽、右はトウネン夏羽ですが、2羽とも背にV字ラインが見えます。ヨーロッパトウネンの幼鳥と夏羽は背にV字ラインが出ますが、夏羽のV字ラインは明瞭ではありません。また図の個体のようにトウネンにも背にV字ラインのある個体があるので、V字ラインがあるだけでヨーロッパトウネンとは判別できません。

図3 2012.05.26



図4 ヨーロッパトウネン 2012.05.26



図5 トウネン 2014.05.23

図4のヨーロッパトウネン夏羽は中央尾羽の羽縁が赤褐色です。図5のトウネン夏羽には中央尾羽に赤褐色の羽縁が見られません。中央尾羽の赤褐色の羽縁はヨーロッパトウネン夏羽の特徴の一つですが、稀に赤褐色の羽縁のあるトウネンもいるよう

です。背のV字ラインにしても、中央尾羽の羽縁の赤褐色にしても、ヨーロッパトウネンの特徴一つを取り上げて、2種の識別をするには限界があります。

## 成鳥 夏羽に換羽中



図6 ヨーロッパトウネン 2013.04.25

図6と図7は、まだ肩羽に灰褐色の冬羽が残っている夏羽に換羽中のヨーロッパトウネンとトウネンです。左右2個体を比べると大雨覆・三列風切の軸斑の濃さ、羽縁の色の違い、中央尾羽の赤褐色の羽縁のあるなし、嘴の形状などヨーロッパトウネンとトウネンの違いが見えてきます。ただ、喉元は左



図7 トウネン 2014.04.28

右の個体とも白いです。これは夏羽に換羽中のトウネンの喉元には白さが残るからです。夏羽への換羽が更に進むと喉元は赤褐色になります。夏羽に換羽中だと喉元の白さでは両種を判別することはできません。

## 幼鳥



図8 ヨーロッパトウネン 2010.09.14

図8と図9は、幼羽に擦れが見られないフレッシュな羽衣をしているヨーロッパトウネンとトウネンの幼鳥です。

左のヨーロッパトウネンは右のトウネンに比べ、雨覆、三列風切の軸斑の黒味が強く羽縁の赤褐色味が強い。雨覆の軸斑と羽縁の境界が明瞭で軸斑とのコントラストが強いですが、トウネンの軸斑は灰褐色で羽縁が淡色なので、コントラストが弱いです。

また、ヨーロッパトウネンはトウネンと比べ足が



図9 トウネン 2007.08.31

長く細い。嘴は先端部分が細目で少し下に湾曲しているなど、図8の個体はヨーロッパトウネンの特徴をしっかり持っています。図9のトウネンは初列風切が尾羽より後ろに飛び出しています。初列風切の長さがヨーロッパトウネンの特徴として解説されていることが多いのですが、初列風切の長さだけでは両種を判別するには無理があります。



図 10 左：ヨーロッパトウネン 第1回冬羽に換羽中  
右：トウネン 第1回冬羽に換羽中

2013.11.09

図 10 の左はヨーロッパトウネンで右はトウネンです。2 個体とも第 1 回冬羽に換羽中の羽衣です。右のトウネンには副眉斑があり、左のヨーロッパトウネンには副眉斑がないように見えます。2 個体は

嘴の長さ、体型の違いからヨーロッパトウネンとトウネンで問題ないと思います。ヨーロッパトウネン幼鳥には副眉斑があるのが普通ですが、副眉斑の有無だけでは 2 種の絶対的な識別点にはなりません。

### 成鳥冬羽



図 11 ヨーロッパトウネン  
成鳥冬羽 2015.09.21



図 12 ヨーロッパトウネン  
左：第 1 回冬羽 右：成鳥冬羽 2014.12.31

成羽は幼羽に比べ大きいいためボリュームがあります。成鳥と幼鳥を比べた場合、幼鳥の上面の羽は成鳥の羽に比べ小さいので、成鳥冬羽と幼鳥（第 1 回冬羽）の識別点になるかと思えます。図 12 の

ヨーロッパトウネン 2 個体を羽の大きさ、ボリューム感で見ると左は第 1 回冬羽、右は成鳥冬羽と判断できます。



### 最後に

ヨーロッパトウネンの特徴を一つ一つ取り上げ、トウネンではどうかという観点から書いてきましたが、ヨーロッパトウネンの特徴を持つ個体がトウネンにもいるということです。嘴が長い、足が長い、胴が短いなどの体型からヨーロッパトウネンと目星をつけ、個々の識別点を見ていくことが必要です。羽にボリューム感がない幼鳥の方が成鳥よりヨーロッパトウネン体型をしています。また、体型はヒバリシギに似て見えることが多い。

## 「9月4日 写真家・叶内拓哉さん 五主探鳥会、講演会」に参加して

伊勢市 濱口 涼子

野鳥に興味を持ち始めて1年ほどの初心者です。昨年、宮リバーで行われた探鳥会が本格的なバードウォッチングデビューで、会員の方々に親切に教えていただき、身近にたくさんの野鳥がいることに驚き感動しました。

今は日々の散歩で偶然出会う野鳥を眺めるという趣味とも言えない程度ですが、その後も何度か探鳥会に参加して皆さんのお話を伺ったり、フィールドガイドを購入したりして、野鳥観察のコツを少しずつ習得しているところです。

今回、午前中は都合がつかず午後からの講演会にお邪魔しました。スライド写真を見ながらの撮影秘話や構図についての説明は、さすがプロカメラマン！と感心しながら楽しく拝聴しました。叶内さんは「子供の頃からの野鳥好き」というだけあって、その知識は本当に深く、話出したら止まら



らない！といった様子。野鳥や自然に対する愛情がひしひしと伝わってきました。写真を撮



る余裕などない私には耳新しいことばかりでしたが、カレンダー公募の狙い目の季節や好印象写真といった具体的な話は、参考になった人も多いのでは。

それにしても、図鑑で見るとような綺麗な野鳥がこんなに近くにいたなんて、今まで知りませんでした。確かに耳を澄ませば、季節によって様々なさえずりが聞こえてきます。その名前を知らなくても可愛い姿を見ているだけで楽しいですが、やはり生態を知ると興味も増します。海外からも渡ってくる野鳥がいるなんて、ちょっと信じられないけど、その長旅の途中で今ここにいるのかと思うと、何だか感慨深いです。

まだ今は双眼鏡で野鳥を追うことで精一杯ですが、写真撮影も楽しいだろうな、と夢が膨らみました。

これから少しずつ知識を増やしていくのが楽しみです。また探鳥会などに参加させていただく際は、宜しくお願いします。

## 県民の森の冬鳥たち

三重郡菰野町 矢田 栄史

三重郡菰野町 R306 にかかる菰野大橋のやや西あたりを良きフィールドにして、休日や勤務の日にも時間があれば観察を続けています。このあたりは伏流なので普段は水が流れていないことが多いです。冬鳥ではツグミ、シメ、ベニマシコ、オオジュリン、ジョウビタキ、アオジなどが観察できます。セキレイの仲間やカワセミ、ホオジロ、カワラヒワ、イカルチドリ、アオサギなども常連さんです。

この秋は11月3日にツグミを初認。例年より1週間ほど早いです。ジョウビタキはすでに10



羽ほど♂♀ともやってきました。メスがモズにおいかけられたりしてます。ベニマシコは9日現在まだ姿を確認していませんがそろそろやってくる頃です。

ヨシ原から独特のやや高いいい声がきこえるどつい姿をさがします。単独や小さい群れ、ときには♂♀の2ショットなどうれしいものです。4月はじめごろ、ヤナギの芽がふくらんでくるとそれをついばむ姿がみれます。画像はツグミが今月3日、アオジは4日撮影です。



## 松阪市「第8回くるくる環境フェスタ IN ベルファーム」に出展

玉城町 西村 泉

2016年9月19日(月・祝)、松阪農業公園ベルファームのイベントに、昨年に引き続き出展しました。台風接近のため開催が心配されましたが、朝からまずまずのお天気で多くの来場者がありました。野鳥の会のブースにも開始時間前からたくさんのお客さんが並び、「木のキーホルダー絵付け」体験に参加してくれました。



絵付け体験は野鳥図鑑を参考にしながら、専用のクレヨンで銘々お気に入りの鳥を木のキーホルダーに描いていただきました。そのほか折り紙・野鳥の会オリジナルの塗り絵も好評で、塗り絵は本物の鳥の色にこだわらず、好きな色の色



鉛筆を使って自由に色付けしていました。キーホルダーや塗り絵を完成させた子どもさんは、どの子も満足げでにっこり笑っていたのが印象的でした。また、所要時間約30分のミニ探鳥会では10名ほどが参加し、貸出用の双眼鏡や望遠鏡を用い池にいるカイツブリの親子を観察しました。皆さん、こんな身近な場所で野鳥が見られることに一様に驚かれています。あいにく午後から雨が本降りになってきましたので、残念でしたが早めに切り上げました。

このイベントには、松阪地区の会員さんに朝早くからお手伝いいただきました。ありがとうございました。



## 「川と海のクリーン大作戦」に参加しました!

玉城町 西村 泉

10月23日(日)午前8時から約1時間、松阪市五主海岸で清掃活動をしました。毎年、国土交通省・松阪市が主催となって行っている「川と海のクリーン大作戦」という恒例行事



で、この日は地域住民100名とともに野鳥の会関係者(10名)が参加しました。天候はよかったものの風が強く、ごみ袋が飛ばないように気を使いながら軍手や金ばさみでゴミを拾いました。ゴミはおもにペットボトルやトレイ・発砲スチロールなどのプラスチック、また漁業道具や電気製品など大きいものもありました。

主催者にお聞きしたところ、ここだけで2トントラックで2.5台分のゴミがあったということです。

参加いただいた松阪地区の方々、お疲れさまでした。いつまでも美しい海岸を残していきたいものです。

## 大阪支部の探鳥会に行ってきました!!

松阪市 加藤 恭子

10月16日古の葛城路(いにしえのかつらぎじ)探鳥会(大阪支部主催)に参加しました。朝7時前の近鉄に乗り2時間かけていったのですが、35種類の鳥を見られて(声だけの鳥もありましたが)とても充実した探鳥会でした。

ノビタキがススキにとまっていて、じっくり見ることができました。上空の雲の間にクマタカが2羽飛んでいたり、オオタカも2羽飛んでいたり、皆さん首が痛くなるほど、空を眺めていました。公園でお昼を食べていたときには、「カケスがいますよ」という声で、たくさんの人が見に行くとカケスはすぐ飛んで行ってしまいました。刈取りの済んだ田んぼの向こうにこんもりとした森があり、森の中ほどに白くて丸いものが見えたと思ったら、ノスリでした。ノスリは、ずっと飛び

立つと田んぼの中をかすめて飛び、電信柱に止まりました。そのくちばしには、獲物をくわえていて、食べ終わると、また獲物を捕りに飛び、それを続けて3回も、常に獲物をしとめているのは、びっくりでした。素晴らしいハンターでした。双眼鏡で十分なくらいの近くでノスリのハンターぶりをじっくり観察できました。

しばらく行くと、こんどは、空で、カラスとチョウゲンボウのバトルです。チョウゲンボウがカラスからやっと思つたら、今度は鳩の群れがチョウゲンボウを追いかけています。気の毒なチョウゲンボウでした。駅の近くでは、コンクリートで固められた小さな川の岸にカワセミが1羽とまっていた。

地元の方が担当者となり、鳥のいる場所を案内してくださったので、たくさんの鳥を見ることができ、楽しい一日でした。9時40分から午後3時まで約6キロの行程でした。帰りの電車の中ではくたびれて、寝てしまいました。



## 2016年秋のタカ渡り 結果報告

### 解説

今回三重県内および奈良県御杖村みつえ牧場でのタカ渡り調査の結果を集計した。会員各自が自主的に行ったもののうち、編集部に送付されたものをまとめた。元報告には詳しい時間の記載もあるが、省略した。また、トビ、ハイタカ属などの記載も割愛した。今後掲載方法など、会員間で論議し、よりよい形式にしたい。

いずれ、観察者が独自に個別データを公開できるようにしたいと考えている。なお、田中豊成氏のみつえ牧場の結果については奈良県支部のデータ、昨年度のデータの記載もあるため、別に全文を掲載した。

今回集計して明らかになった点は多度山で相当数のサシバ、ハチクマが渡っていること、また、県民の森でも同様であり、県民の森では9月2日という早い時期からの渡りがあることが明らかになりました。さらにみつえ牧場ではかなり多くのタカが渡っており、これが三重県内のどこを通過しているのかも興味ある。(平井)

### みつえ高原タカ渡り 結果報告

名張市 田中 豊成

#### ■ 2016年度

- 野鳥の会三重 みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会  
2016-10-2(日) am 8:00~12:00  
サシバ 126 ハチクマ 5 ツミ 1  
ノスリ 1 クマタカ 1
- 個人観察  
2016-10-6(木) am 7:30~12:00  
サシバ 245 ハチクマ 6
- 野鳥の会奈良支部 2016年9月26日~10月8日  
サシバ 3289 ハチクマ 64

#### ■ 2015年度

- 野鳥の会三重 みつえ高原タカ渡り探鳥会  
2015-10-3(日) am 8:00~12:00  
サシバ 337
- 野鳥の会奈良支部 2015年9月12日~10月9日  
サシバ 1795 ハチクマ 50

みつえ高原牧場は、奈良県御杖村にあります。牧場の北側には古光山が隣接しています。このルートは、知られるようになったのは最近ですので、古い

データはありません。

毎年秋には、サシバを主体としてハチクマ、その他の猛禽類が通過します。牧場から観察すると伊勢方面、つまり東側から集団が現れます。それをもとに推測すると、伊良湖崎～伊勢～高見山～和歌山～四国ルートになり、高見山近辺では最北のルートになるものと思われます。

昨年と今年は、3回でしたが、多くのサシバが観察されました。又、奈良県支部了解を得て、データをお借りしました。

これらから、みつえ高原牧場は多くのサシバが渡ることが分かりました。

表：2016 タカの渡り報告

観察日	9月2日	9月14日	9月18日	9月25日	9月25日	9月26日	9月26日	9月27日	9月27日
観察場所	県民の森	県民の森	県民の森	多度山	県民の森	伊勢	多度山	伊勢	多度山
観察時間			10:00-10:30	12:50		7:50-10:00	11:00-15:00	8:20-10:00	10:30-11:15
天候						曇			
サシバ	12		16			1	13	0	6
ハチクマ	1		1	1			6		3
ノスリ				1			1		4
ツミ									
ハヤブサ									
ミサゴ	1								
タカ類(注1)		約30			約70				

観察日	9月28日	9月28日	9月29日	9月30日	9月30日	10月1日	10月2日	10月2日	10月4日
観察場所	伊勢	県民の森	伊勢	伊勢	多度山	伊勢	伊勢	みつえ	伊勢
観察時間	8:10-10:00	10:30-12:08	8:10-10:00	8:10-10:00	11:00-12:30	6:20-10:00	7:30-10:00	8:00-12:00	8:10-10:30
天候	曇/雨		曇/雨	晴/曇		雨霧	曇		曇/晴
サシバ	0	25	0	25	1	0	1	126	29
ハチクマ		5						5	
ノスリ		4			1			1	
ツミ		1						1	
ハヤブサ		1							
ミサゴ									
タカ類(注1)									

観察日	10月5日	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月10日	10月10日	10月11日	伊勢合計
観察場所	伊勢古市	みつえ	伊勢	伊勢	相津峠	伊勢	相津峠	伊勢	
観察時間	(7:30-8:00)	7:30-12:00	8:10-10:30	8:00-10:30	8:00-11:00	7:45-10:30	10:00-11:00	8:00-10:00	
天候	曇/雨		晴	晴		晴		晴	
サシバ	※500	245	4	252	10	40	31	0	352
ハチクマ		6							
ノスリ									
ツミ									
ハヤブサ									
ミサゴ									
タカ類(注1)									

脚注：

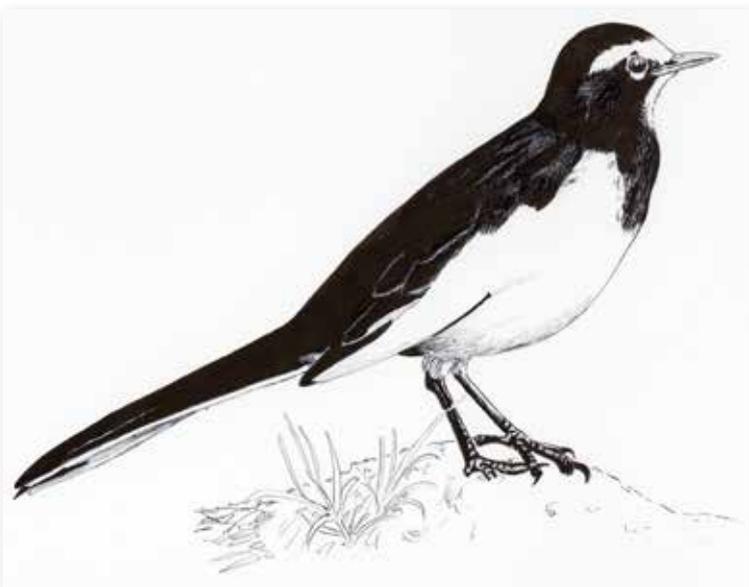
観察地 伊勢との表示は伊勢やすらぎ公園、みつえは奈良県御杖村みつえ高原牧場  
観察者 伊勢やすらぎ公園：高木正文・中西章、  
伊勢古市：高木正文・中西章、  
相津峠：西村四郎：中村洋子、県民の森：阿部裕  
多度山：笹間俊秋、  
みつえ牧場：当会探鳥会（10月2日）あるいは田中豊成（10月5日）

種名について：タカ類（注1）はサシバ、ハチクマ、ノスリなどを含み、計数は概数である。

## 事務局だより

活動の記録（2016年8月～11月）

- 8/16 四日市環境審議会（足見川メガソーラー計画について）を傍聴
- 8/28 第2回理事会
- 9/2 会報「しろちどり第89号」発行・発送作業
- 9/19 「くるくる環境フェスタinベルファーム」に出展
- 10/1~2 第24回中部ブロック会議（愛知県）へ参加（3名）
- 10/23 国土交通省・松阪市主催「川と海のクリーン大作戦」に参加
- 11/12~13 平成28年度連携団体全国総会へ参加（1名）
- 11/19 しろちどり編集会議



### セグロセキレイ

誰でも、幼いころから馴染みのあるセキレイだと思います。スマートで尾が長く、白黒が美しい鳥です。殆ど日本でしか繁殖をしない、日本固有種になっています。だから、海外の鳥好きには、ヒヨドリ同様憧れの鳥になることでしょう。

（イラスト・文 田中豊成）

## 今後の探鳥会予定

(詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください)

- 
- 1月6日(金) 又は 7日(土) ミヤコドリカウント探鳥会 雨天決行!  
開催地/伊勢湾西岸各地集合/10:00  
各地 解散/12:00 各地
- 
- 1月8日(日) 横山池・安濃ダム探鳥会  
開催地/津市芸濃町 横山池・安濃ダム  
集合/10:00 津市芸濃文化センター駐車場  
解散/12:00 安濃ダム
- 
- 1月15日(日) 上野森林公園探鳥会 小雨決行!  
開催地/伊賀市下友生 上野森林公園  
集合/9:30 上野森林公園ビジターコテージ  
解散/11:30  
参加予約必要 上野森林公園(0595-22-2150)
- 
- 1月22日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、4月24日と同じです。
- 
- 1月28日(土) 両ヶ池探鳥会  
開催地/いなべ市大安町石樽東 両ヶ池公園  
集合/10:00 両ヶ池公園道路脇駐車場 解散/12:00
- 
- 1月29日(日) 大淀海岸探鳥会 小雨決行!  
開催地/多気郡明和町 大淀海岸  
集合/9:30 大淀小学校前 業平の松公園 解散/11:30
- 2月5日(日) 木曾三川探鳥会  
開催地/桑名市・海津市・愛西市 揖斐川・長良川・木曾川  
集合/9:00 桑名市 多度大社前駐車場付近  
解散/12:00
- 
- 2月19日(日) 五十鈴公園探鳥会  
開催地/伊勢市 五十鈴公園  
集合/10:00 浦田町バス停 解散/11:30

## 五十鈴公園

- 
- 2月26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、4月24日と同じです。
- 
- 3月5日(日) 石垣池探鳥会 小雨決行!  
開催地/鈴鹿市石垣町 石垣池  
集合/10:00 石垣池東側駐車場付近 解散/12:00
- 
- 3月5日(日) 海辺の鳥を観察しよう  
開催地/津市 安濃川河口  
共催/三重県総合博物館 参加予約必要
- 
- 3月12日(日) 宮リバー公園探鳥会  
開催地/度会町 宮リバー公園  
集合/9:30 バザールわたらい前駐車場 解散/12:00
- 
- 3月14日(火) 海蔵川探鳥会 小雨決行!  
内容は、5月10日(火)と同じです。
- 
- 3月19日(日) 余野公園探鳥会  
開催地/伊賀市余野 余野公園  
集合/10:00 余野公園駐車場 解散/12:00
- 
- 3月25日(土) 篠田山探鳥会 小雨決行!  
開催地/松阪市久保町 篠田山斎場  
集合/9:30 篠田山 トイレのある大きい駐車場 解散/11:30
- 
- 3月26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、4月24日と同じです。
- 
- 3月26日(日) 安濃中央公園探鳥会  
開催地/津市安濃町 安濃中央総合公園  
集合/9:30 安濃中央総合公園駐車場 解散/11:30

# 野鳥記録

野鳥記録 (2016年08月11日から11月10日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察月日 (2016年)	観察場所 (三重県)	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者名	脚注
コグンカンドリ (参考記録)	1	8月28日	松阪市 曾原大池の海岸		広野 喜郎	1
ツツドリ	1	9月7日	三重郡菰野町菰野		矢田 栄史	2
コサメビタキ	1	10月1日	三重郡菰野町菰野 三滝川		矢田 栄史	3
ヒヨドリ	約120	10月1日	三重郡菰野町菰野		矢田 栄史	4
サシバ・暗色型	1	10月4日	桑名市多度町	成鳥・雌雄は不明	山神 勝治	5
マガン	1	10月11日	木曾岬町		山神 勝治	6
コシジロオオソリハシシギ	3	10月9日	津市香良洲町 雲出川河口	亜種	片山 賢一	7
ジョウビタキ	1	10月25日	木曾岬町	♂初認	米倉 静	8
ジョウビタキ	1	10月22日	北勢中央公園	雄 初認	三曾田 明	9
シメ	20～30	11月22日	北勢中央公園	初認	三曾田 明	10
ジョウビタキ	1	11月1日	木曾岬町	雌 初認	米倉 静	11
クロハラアジサシ	3	9月2日	南牟婁郡御浜町神志山壺の池		中井 節二	12
ツメナガセキレイ	1	9月13日	御浜町市木		中井 節二	13
マミジロタヒバリ	1	9月13日	御浜町市木		中井 節二	14
コオバシギ	1	9月21日	御浜町市木		中井 節二	15
アリスイ	1	9月23日	御浜町市木		中井 節二	16
チゴハヤブサ	1	9月28日	御浜町市木		中井 節二	17
アカマシコ	1	9月28日	御浜町市木	多分幼鳥	中井 節二	18
シマアジ	1	10月6日	熊野市金山町	雄	中井 節二	19
ノジコ	1	10月18日	御浜町志原		中井 節二	20
コホオアカ	1	10月10日	御浜町志原		中井 節二	21
ホオジロ	1	10月22日	御浜町志原		中井 節二	22
オオヨシキリ	1	10月20日	御浜町志原		中井 節二	23
オオムシクイ (参考記録)	1	10月28日	御浜町市木		中井 節二	24
ツグミ	1	11月3日	三重郡菰野町菰野 三滝川	初認	矢田 栄史	25

※種の識別が不確かなものは参考記録としました。

注：

- 1: オオグンカンドリかコグンカンドリか、正確には分かりません。
- 2: 三重県民の森で鳴き声は何度か聞いているが姿を見るのは初。
- 3: モズの大きな声や動きにもまったく動じずしばらくとまっていた。
- 4: 10羽から30羽程度の群れは何度も見ているがこれほどの集団を見るのは自身初めて。
- 5: たまたま撮った一枚、出現率が少ないのでラッキーな一枚でした。
- 6: 越冬地へ行く途中群れから迷ったのか、しばし休憩していたようです。
- 7: 撮影者・観察者：片山 賢一氏 腰が白いオオソリハシシギ 代理投稿 : 安藤 宣朗  
(*Limosa lapponica menzbieri*)
- 8: ムラサキシキブの実を食べている、見やすい所で周りを警戒する。
- 9: 今季初認、去年は10/18だったので、ほぼ同じ時期です。
- 10: 今季初認、今年も群れでやってきました、去年は11/7でした。
- 11: 先月いたオスを追い出した様子です。
- 12: 3羽で遠くのほうを飛んでいた。
- 13: 今年は本種は多かった、このほかにも、9月14日紀宝町、志原9月24～29日  
有馬10月30～31日がありました、多いとき3羽が居ました。  
鳴き声はビジビジと鳴いていたのと足が黒かった。
- 14: 6枚くらい写真を撮りましたが、いいところにでなかったです。  
ビーンビーンと鳴いていた、このとりの独特の、足を伸ばしてとまっていた。
- 15: 水田に入るオバシギは当地では、はじめての記録でした。
- 16: 当地では9月の記録はありません、1番早い記録です。
- 17: 10月2日の探鳥会の日にも出ていた。
- 18: 昨年も来ていて、太平洋側にも来ていたと思いました。
- 19: 10月6日～13日まで時々見かけた。
- 20: セイタカアワダチソウにとまっていた。
- 21: ノジコと一緒に来みたいで、農道に下りてホオジロなどと餌を食べていた。
- 22: ホオジロと同じくらいの大ききで平成26年4月にもよく似た個体来ていて、専門家に尋ねたらホオジロの茶色の色素が、抜けたみたいと答えが出ていました。
- 23: 遅い記録です、多分渡りの途中寄ったと思われます。
- 24: 時々よく似た鳴き声を聞いていましたが、今回聞いた鳴き声は、セグロセキレイによく似ていました、もしかすると参考記録かもしれません。
- 25: 1週間すればツグミがくるな、と考えながら河川敷にでるとマツの木のてっぺんにとまっていた。



コグンカンドリ 広野 喜郎: 撮影



マガン 山神 勝治: 撮影



コシジロオオソリハシシギ 片山 賢一:撮影



クロハラアジサシ 中井 節二:撮影



マミジロタヒバリ 中井 節二:撮影



ツメナガセキレイ 中井 節二:撮影



アカマシコ 中井 節二:撮影



ノジコ 中井 節二:撮影



コホオアカ 中井 節二 : 撮影



オオムシクイ (参考記録) 中井 節二 : 撮影

## 探鳥会報告

探鳥会報告 (2016年8月～10月)

### ● 外城田川ねぐら入り探鳥会

2016年8月6日(土) 17:00～19:00  
伊勢市東豊浜町土路(どろ) 外城田川河口  
西村 泉 参加者21名(会員7名)

キジ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、イソシギ、ウミネコ、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、イソヒヨドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ  
計19種

猛暑にもかかわらず、たくさんの参加者が来てくれた。本部がねぐら入り探鳥会をPRしてくれたおかげで、一般の方が多かった。

先ず、宮川河口を回りお目当てのコアジサシをさがすも皆無。今年はコアジサシの繁殖が大成功したことを説明し、外城田川河口へ移動した。堤防近くの池でアオサギ、ダイサギをじっくり観察してもらった。期待していたツバメの乱舞を見ることはできなかったが、編隊を組んで次々やってくるサギの群れに参加者から歓声が上がった。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年8月28日(日) 9:00～11:00  
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会  
近藤義孝 米倉 静 参加者7名(会員6名)

カルガモ(20)、カイツブリ(2)、キジバト(6)、カワウ(50)、アマサギ(50)、アオサギ(15)、ダイサギ(50)、チュウサギ(50)、コサギ(1)、ケリ(2)、コチドリ(1)、イソシギ(1)、ミサゴ(3)、チュウヒ(2)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(30)、ヒバリ(5)、ショウドウツバメ(10)、ツバメ(10)、オオヨシキリ(2)、セッカ(30)、スズメ(100)、ハクセキレイ(20)、セグロセキレイ(5)、カワラヒワ(200)、ホオジロ(2)、カワラバト(20) 計29種

雨交じりの天気で、参加者少ない日でしたが、涼しいためか種類は少なかったのですが、数はたくさん見られました。稲刈りも始まったので、サギ類がたくさん見られました。

### ● 野鳥写真家・叶内拓哉さんがやってくる！五主探鳥会と講演会

【探鳥会】

2016年9月4日(日) 9:30～11:10

松阪市 五主海岸

西村四郎 松島雅之 参加者40名(会員32名)  
カワウ、アオサギ、チュウサギ、ダイゼン、シロチドリ、チュウシャクシギ、ハウロクシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、オバシギ、コオバシギ、ミユビシギ、トウネン、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、ハクセキレイ、オオミズナギドリ 計19種

台風の接近で天気が心配でしたが、参加者の皆さんの心がけがよかったのか、雨なく、むしろ暑い日になりました。

叶内さんの挨拶から始まり、「なるべく皆さんの質問に答える形式で」という叶内さんの要望があって、質問した人はたくさん話せたし、質問をしなかった人はあまり話せなかったかも知れません。

探鳥会が始まった頃は満潮から2時間ほどの時間で、徐々に干潟が現れてきて、まあまあシギ・チドリを観察できました。ハウロクシギやオバシギとコオバシギの群れなど、堪能できました。

さすがに叶内さんのビッグネームのおかげで、普段の倍の参加がありました。興和光学からの双眼鏡の貸し出しや、叶内さんの著作の販売なども盛況でした。

#### 【講演会】

2016年9月4日(日) 13:30～15:30  
松阪市 ハートフルみくも  
西村四郎、松島雅之、参加者4.2名(会員3.3名)

叶内さんのスライドを見ながらの楽しい講演会になりました。叶内さんの野鳥に関する知識は、つきることがなく、次から次へと話が飛んでいきます。

- ・シギチで体力が十分ある個体は、一気に目的地まで飛ぶ。日本に寄る個体は体力が十分でない個体。シギチはそんなに減っているわけではないかも知れない。
- ・猛禽の中に、希に人を恐れぬ個体がいる。
- ・オオタカが鴨の群れの上を何回と飛ぶのは弱った個体を捜すため。
- ・開放絞りが一番きれいに撮れる。
- ・鳥は必ず風上に向かって飛ぶ。
- ・縦位置で写真を撮ると良い。
- ・フクロウを捜すのは、上を見るのではなく下を見る。(ペリット等)
- ・さえずりはなわばり宣言で、雌をよぶためではない。さえずっている時点でペアになっている。等々です。あっという間の2時間でした。

#### ● 海蔵川探鳥会

2016年9月13日(火) 9:45～11:45  
四日市市西坂部 海蔵川沿い  
川瀬 裕之 参加者7名(会員6名)

キジ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、チュウサギ、コサギ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、カワラバト 18種

前回5月が雨で中止になったので3月の探鳥会以来半年ぶりの開催になりました。不安定な天気で開催出来るか微妙なところでしたが、雨もしばらく上がっていて、参加者の方も数名みえていたので決行しました。

開始して間もなくカワセミが出迎えてくれ、しばらくするとゴイサギ親子も姿を見せてくれました。川岸の木にはチュウサギ、コサギ、アオサギ、ゴイサギとサギのなる木が点在していました。雨が降り出しそうな天気です。いつもより足早に回ったせいもあり、見られる種類がちょっと少なかったのが残念でした。モズの高鳴きを聞いていると雨が降り出したので早々と終了しました。

#### ● 多度山タカ渡り探鳥会

2016年9月24日(土) 9:00～11:00  
桑名市 多度山3合目  
近藤義孝 参加者10名(会員7名)

カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ショウドウツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ホオジロ 計15種

前日までは雨続きでしたが、集合時には曇りでした。残念ながら晴れる可能性のない天気方でしたが、3合目まで登りました。アオゲラの声などは聞こえましたが、タカの渡りは観察できませんでした。ただ、アサギマダラ {渡り蝶} が1匹飛んでいました。

#### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年9月25日(日) 9:00～12:00  
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会  
近藤義孝 参加者14名(会員11名)

カルガモ(50)、コガモ(20)、カイツブリ(3)、キジバト(5)、カワウ(300)、アオサギ(4)、ダイサギ(20)、チュウサギ(20)、コサギ(5)、ケリ(20)、クサシギ(1)、イソシギ(3)、ウミネコ(1)、ミサゴ(5)、サシ

バ (1)、チョウゲンボウ (1)、モズ (20)、ハシボソガラス (20)、ハシブトガラス (70)、ヒバリ (5)、ショウドウツバメ (1000)、ツバメ (30)、ヒヨドリ (20)、セッカ (1)、ムクドリ (1)、スズメ (100)、ハクセキレイ (1)、セグロセキレイ (3)、カワラヒワ (30)、ホオジロ (1)、カワラバト (20) 計 31 種

久しぶりの好天でしたが、あまり鳥の姿を見ることができずに過ぎていきました。木曾岬干拓地ではチュウヒも現れず、遠くにミサゴがいるだけでしたが、よく見ると無数のショウドウツバメが飛んでいました。今年は移動が遅れているようです。

### ● 香良洲海岸探鳥会

2016年10月1日(土) 13:00～15:00

津市香良洲町 香良洲海岸・雲出川河口左岸

今井光昌 今井鈴子 参加者27名(会員19名)

カルガモ、カウウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシギ、チュウシャクシギ、ツルシギ、イソシギ、キョウジョシギ、オバシギ、コオバシギ、ミュビシギ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ショウドウツバメ、ツバメ、ヒヨドリ、キビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計34種

早朝の雨空も探鳥会に合わせるように天気回復、逆光を避けるため今回は開始時間を午後1時からにしましたが、干潟の先端付近に鳥が集まり、遠距離であったのが難でした。

ミヤコドリやミュビシギなど多くのシギ・チドリ

### タカブシギ

海岸近くの水田、湿地、河川等に飛来します。稀に、内陸でも見かけることがあります。シギの中でも、スマートで優しい目つきをしているので、個人的には気に入っています。

(イラスト・文 田中豊成)

を見ることが出来ましたが、期待したオオアジサシが現れてくれなかったのは残念です。

他県の人、会員外の人、子供づれの人など多くの方が参加され、楽しんで頂けたと思います。

### ● 伊勢タカ渡り探鳥会

2016年10月1日(土) 開催予定でしたが、雨と霧のため視界が悪く中止しました。

### ● みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会

2016年10月2日(日) 8:00～12:00

奈良県宇陀市御杖村 みつえ高原牧場

田中豊成 南 一朗 参加者14名(会員8名)

サシバ、ハチクマ、ツミ、トビ、ノスリ、クマタカ、ハシブトガラス、キジバト、ヒヨドリ、スズメ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、アマツバメ、ヒバリ、イソヒヨドリ、モズ、ヤマガラ、ホオジロ、オオアカゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、カモメ(sp) 計24種

9月から雨が多く探鳥会が心配だったが、晴れ間も見えたのでタカ類も良く飛んでくれました。

小さなツミが倍ほどもあるハチクマを攻撃、10分程やっていました。全員で「気が強いなあ」と話しました。サシバは、かなり上空を飛び見づらかったのですが、10数羽のタカ柱が見られて一同感激しました。クマタカも現れました。

### ● 市木川及び田んぼ探鳥会

2016年10月2日(日) 9:00～12:00

南牟婁郡御浜町 市木

中井節二 清水勝海 参加者18名(会員11名)



キジ、カルガモ、シマアジ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、タシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、チゴハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、計26種  
こちらでは珍しく秋のシマアジが見られ、2年ぶりにチゴハヤブサ2羽も見られました。

### ● 相津峠タカ渡り探鳥会

2016年10月8日(土) 8:30～11:30

松阪市飯南町 相津峠

西村四郎 中村洋子 参加者6名(会員5名)

キジバト、アマツバメ、トビ、サシバ、クマタカ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、コサメビタキ、キセキレイ、計18種

待ち合わせ場所の道の駅ではまだ雨でしたが、とにかく峠まで行きました。けっこう霧がでていましたが、徐々に霧は上がってきました。アサギマダラが飛んでいました。

初めは峠近くのカラスザンショウ、アカメガシワ、クマノミズキ、ヌルデ、ケンポナシなどの周辺でヒタキ類を捜しましたがコサメビタキしか確認できませんでした。その後、「感謝の丘」まで行きました。ツバメも飛ばず、しばらく退屈な時間でしたが、向の稜線にクマタカが現れ、木にとまってくれました。望遠鏡で尾の横班模様などしっかり観察できました。その後は南方面でサシバが見えました。遠かったですが計31羽観察しました。

天気がイマイチでしたが、それなりに楽しめました。獅子ヶ岳には風車が9基立っているのが見えました。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年10月23日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者13名(会員8名)

オカヨシガモ(2)、ヒドリガモ(19)、マガモ(7)、カルガモ(30)、ハシビロガモ(17)、オナガガモ(1)、コガモ(230)、カイツブリ(2)、キジバト(6)、カワウ(20)、アオサギ(4)、ダイサギ(5)、オオバン(4)、ケリ(3)、タシギ(1)、クサシギ(1)、イソシギ(4)、ミサゴ(4)、チュウヒ(5)、ノスリ(4)、カワセミ(1)、ハヤブサ(1)、モズ(10)、ハシボソガラス(15)、ハシブトガラス(20)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(3)、

ヒヨドリ(4)、ムクドリ(20)、ジョウビタキ(3)、ノビタキ(3)、スズメ(73)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(7)、セグロセキレイ(5)、ビンズイ(1)、カワラヒワ(30)、ホオジロ(3)、カワラバト(37) 計39種

渡りの途中のノビタキは、頭が黒いものもいました。また、ノスリもやってきました。木曾川の上をカモメの仲間が飛んでいました。ウミネコはたくさんいるようですが、1キロメートル離れているため、種の同定はできませんでした。

### 編集後記

ここはいつもは平井が書いているところだが、今回は私(三曾田)が書いている。それは、今回はプロが使っているレイアウトソフトを試験的に導入し、それを使って私が全レイアウトをしているからだ。一番苦労している人が書くということなのだろう。

案の定、3日くらい徹夜状態で作業。今後はこれを元に作っていけるのもっと楽になるのはずだが、今はとても眠い・・・。

プロご用達のツール(InDesinという)だけあって高機能でいままでできなかったこともできるし、デザインももっとよくすることができるのだが、今回は必要最低限。それでも少しでも見やすいデザインにしよう頑張った。あまり気づかれることがないと思うので、敢えてここで主張しておきたい。(A.M.)

しろちどり 90号

2017年1月10日発行

題字:濱田稔

表紙絵:石原宏

カット:田中豊成

編集:平井正志・笹間俊秋・三曾田明

発行所:日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

<http://miebird.org/>

印刷:株式会社プリントパック

617-0003 京都府向日市